

# 本学における特殊体育グループ所属学生の実態と 特殊体育授業に対する学生の評価

黒田 善雄\* 生田 香明\* 沢田 美智子\* 山田 茂\*

The Actual Status of Students Enrolled in Special Physical  
Education Programs and Their Evaluations of the Programs in  
the College of General Education, University of Tokyo

by

YOSHIO KURODA\*, KOHMEI IKUTA\*, MICHIKO SAWADA\*, SHIGERU YAMADA\*

## Abstract

This study was intended to clarify two aspects of the special physical education programs offered at the College of General Education, University of Tokyo; one was the actual status of students participated in the programs with the causes of diseases and physical inabilities from 1968 to 1975, and two was the students' evaluations and opinions on the programs offered in 1974 and 1975. For the latter purpose a questionnaire was administered to 169 students who were enrolled in the special programs. The results were as follows:

1. About 3 to 5 per cent of the students were annually enrolled in the special physical education programs from 1968 to 1975. (The total annual students enrolled in the College of General Education were about 3,050.)

2. The most common causes for enrolling in the special programs were cardiovascular disease (hypertension, cardiac valvular disease, etc.), about 50 cases, and next coming were urinary diseases (nephritis and suspects of nephritis) and movement disabilities (disc hernia, bone fracture, etc.), about 30 cases for each.

3. Majority of the students (90.4%) who were enrolling in the programs recognized the existence of the programs in the total curriculum of physical education as good; however, there were only 34.3% of the students who were satisfied with the programs and, to the contrast, there were 36.2% who were unsatisfied with them.

4. Two thirds of the students recognized the present modes of the special programs as good, and 32.5% of the students indicated the necessity of reform. Whereas, as to the contents of activity and instructional methods, nearly half of the students (49.1%) insisted the needs of improvement. Students who recognized the status quo as good were 47.9 per cent.

\* 東京大学教養学部体育研究室 (Department of Physical Education, College of General Education, University of Tokyo)

## I 緒 言

昭和25年から42年までの18年間にわたる本学における特殊体育グループ所属学生の実態については既に本紀要に報告した<sup>1)</sup>。

本研究においては昭和43年以後昭和50年までに本学に入學（昭和44年度は入學試験を実施しなかったため資料がない）した学生のうち、疾病や外傷などの理由により健康な学生と一緒に一般体育実技を受講できないため、特殊体育グループに入班した学生の実態を明らかにしようとした。また、主として昭和49年、50年度に入學して（若干の降年、留年生を含む）特殊体育グループに入班した学生に対して、現在本学が実施している特殊体育の授業に対する評価についてアンケート調査を実施して、特殊体育の授業に対して学生たちがどのような考え方をしているかを明らかにしようとした。そして、特殊体育グループに所属している学生たちの要望をできるだけ受け入れて、よりよい特殊体育の授業を実施するにはどのようにしたらよいかを検討した。

## II 調査方法

疾病や外傷などのために特殊体育グループに入班する学生は、入學時および入學後の定期健康診断で異常がみつかったり、入學後に発病または受傷した者である。これらの学生に対して特殊体育グループを組織し、それぞれ健康状態に適した授業を行なっている。このグループ分けは医師の診断および面接にもとづいて運動禁止グループ（特1）と軽運動グループに分け、さらに軽運動グループを次の4つに分けている。

- 1) 心臓病、高血圧などの循環器系疾患を有する者（特2）
- 2) 腎臓関係の疾患を有する者（特3）
- 3) 呼吸器系疾患ならびに 1) 2) 4) 以外の疾病を有する者（特4）
- 4) 運動器系疾患を有する者（特5）

この特殊体育グループに入班した学生に対して、各個人について病名、発病時期、治療方法、経過および現在の状態や後遺症などについてくわしく記録させる管理ノートを作成している。調査

はこの管理ノートにもとづいて昭和43年から昭和50年にいたる 878 名について行なった。

調査項目は次のようである。

- ① 各年度別入学者総数に対する特殊体育グループ入班者数とその割合
- ② 疾病分類別例数とその年次推移
- ③ 疾病小分類別例数とその年次推移

また、特殊体育の授業に対するアンケート調査の質問項目は図1に示すとおりである。アンケート調査は、授業時間に各担当教員が調査の目的を十分に説明した後、各学生自身に記入させ、その場で回収した。対象となった学生は特1～特5まで全部で169名であった。

## III 結 果

### 1. 特殊体育グループ入班者の全入学者数に対する割合

昭和43年から50年にいたる各年度別の入学者数に対する特殊体育グループ入班者の占める割合を示したものが表1である。

表1 年度別入学者数と特体グループ入班者数およびその割合

入學年度	入学者数	特体グループ入班者数	入学者数に対する割合
43	3065	115	3.8
44			
45	3065	137	4.5
46	3048	164	5.4
47	3046	112	3.7
48	3040	125	4.1
49	3046	103	3.4
50	3035	122	4.0

その割合は昭和43年の3.8%から昭和50年の4.0%まで、3%台から5%台の割合を示し、昭和46年の5.4%が最高で、昭和49年の3.4%が最低であった。この7年間の平均値は4.1%であった。

### 2. 入班の原因となった疾病の年次推移について

各年度の疾病分類別に入班の原因となった疾患